

ヤムネシゲ 矢部宗重 通稱權丞・覺左衛門。父覺左衛門の遺知二百石を受けて、後更に二百石を加へ、御膳奉行・大小將横目から次第に昇進して、前田吉徳附御小將に至り、享保六年六月廿八日七十七歳を以て歿した。

ヤムネマサ 矢部宗昌 通稱權八・八郎左衛門・覺左衛門。初め新知三百石を受け、前田吉徳附御大小將・御納戸奉行に歴任し、享保六年父覺左衛門の遺知四百石を受けて自分知を除かれ、十年五十石を加へ、十二年小松馬廻番頭となり、元文元年御免、二年歿した。

ヤマオリ 山下り 能美地方では、山間の稼業に従ふもの今五月十七日に山を下り、改めて農事を開始する爲一日の休業を行ふことがある。之を山下りと稱する。

ヤマガ 山家 江沼郡菩提の奥に那谷領の山があつて、山家と名づける。その佛ヶ瀬窟といふに、天正中暫く那谷寺の觀音を安置したことがあると傳へる。

ヤマガソウサ 山家宗佐 前田利常の時、御茶堂に召出され、合力金十兩を受け、寛文七年には知行八十石となり、八年歿した。子孫相承けたが、四代宗佐の時、元文中流刑に處せられて家断絶した。

ヤマガソウボク 山家宗朴 宗佐の子。寛文八年父の後を襲いで御茶堂となり、合力金十兩を得、元祿九年知行百石に増し、十年御茶堂頭に任ぜられ、正徳二年歿した。

ヤマガタジヨウ 山方城 珠洲郡若山莊に在つた。今その地を考へ得ぬ。↓ヤマガタロ

クロザエモン 山方六郎左衛門。

ヤマガタロクロザエモン 山方六郎左衛門 正平廿四年(應安二)十二月得田加賀介章房の軍忠狀に、同年十二月廿八日山方六郎左衛門入道以下の楯籠つた珠洲郡若山莊山方城に馳向ひ、晦日之を追落したとある。六郎左衛門は能登の士で、越中の宮方桃井播磨守直常の與黨であつた。

ヤマガハ 山川 石川郡富樫庄に屬する部落。越登賀三州志故墟考に、山川村に富樫政親の家老山川三河守の館跡があるとし、龜尾記にはこの城に後藤某が居たとある。ヤマガハイシ 山川石 石川郡山川から産する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、帯綠色石基中に白色礫狀の陶土様物質を混じ、質甚だ軟い。

ヤマガハウチ 山川氏 富樫譜に、富樫次郎家經の四男山川繁家を始祖とする。石川郡山川村に居住して、遂に苗字としたのであらう。

ヤマガハコウジ 山川孝次 金澤の白銀師。初名山屋八十吉。諱は茂孝。天保の頃柳川春茂に宗珉風の彫法を學び、加賀宗珉と稱せられた。文久二年藩の白銀職となり、明治十五年歿。

ヤマガハジヨウ 山川城 石川郡山川に在つて、富樫政親の臣山川三河守の居であつた。今通稱して城と言つて居る。越登賀三州志故墟考に、此の地は三河守本第地の跡で、野々市に在つたのは富樫氏に出任する際の別邸であらうと記する。

ヤマガハハチロウ 山川八郎 富樫泰高の守護代であつた。長享三年正月舊守

護教家が一時その位置を恢復し、二月泰高を誅罰せられんとする風聞のあつた時、八郎は廿八日父筑後入道と共に割腹して、その主泰高の助命と領土の割分とを求めた。

ヤマガハミカハノカミ 山河三河守 又三河に作る。富樫政親の家老で、官地論には、長享二年高尾城陥落の時、山内の一揆に捕へられ、祇陀寺に押籠められたが、越前に脱走したとある。

ヤマガハヤカタ 山川館 野々市に山川殿館といふ所があり、寶永誌に山川三河守の館跡と傳へるとある。↓ヤマガハジヨウ 山川城。ヤマガミ 山上 鳳至郡河原田郷に屬する部落。

ヤマガミウチ 山上氏 尊卑分脈に、林六郎光明の四男山上六郎光隆、その子彌六左衛門尉忠光、その子右衛門尉朝忠がある。能美郡山上郷に住居したのであらう。

ヤマガミゴウ 山上郷 能美郡の古郷名。和名抄に也萬賀美と訓む。正長元年山嶺家の石清水八幡宮寄進狀に能美郡山上郷があり、寛正二年又山上郷を直務すべきことを命じた執達狀がある。後林光隆こゝに住して子孫山上氏を稱し、戰國以降また山上郷があつた。

ヤマガミゴウ 山上郷 能美郡に屬する。藩政時代に於いては田子島・田子島新・興九郎島・興九郎島新・一ツ屋・三反田・土室・宮竹・宮行新・岩本・燈臺笹・舟場島(一に燈臺笹明島)・和佐谷・大口・徳山・金剛寺・湯屋・萌生・長浦・三ッ口・岩内・火釜・來丸・山田・山田先出・出口・倉重・辰口・北市・徳久・上清水・下清水・河原

新保・粟生・吉光・三道山・末寺・秋常・高座・和田・石子・湯谷・上開發・下開發・館・坪野・廣瀬・瀬木野・河合・上野・下野・釜清水・上吉谷・下吉谷・西佐良・三ッ屋・三ッ屋野・河原山・佛師野の五十九ヶ村を含んで居た。

ヤマガミゼンエモン 山上善右衛門 諱は喜廣。藩の御大工。寛永五年召出され、五十俵を賜はり、正保三年知行百石を賜はつた。梯天満宮・瑞龍寺・妙成寺その他善右衛門の建築したものが多い。子伊左衛門その職を襲いだ、これは切米であつた。

ヤマギシ 山岸 江沼郡下福田の内の小字。太平記に、加賀國の住人敷地伊豆守・山岸新左衛門・上木平九郎以下の者共とある新左衛門は、この地の人であらう。

ヤマギシ 山岸 雁島郡中島の内の小字。ヤマギシ 山岸 鳳至郡河原田郷に屬する部落。長谷部信連の居館はこゝに在つたといふ。能登誌に「信連則此所にて卒死せらる。其比の城跡は、山岸村の散村城の郷と呼べる地にて、城下の跡をば一番町などと呼びて地名に残れり。」と見え、又その墳墓も、寶永の郡方書上に「山岸村領田之中に、回り二十間程、高さ四五尺程之高き所有之。長谷部信連墓所之由申傳候。」とある。

ヤマギシイチロエモン 山岸市郎右衛門 山岸流居合の祖。慶安三年小松に於いて御算用者として召抱へられ、萬治二年、金澤に來て御算用場に勤めた。寶永五年五月十四日歿。

ヤマギシガハ 山岸川 ↓ワジマガハ 輪島川。ヤマギシザエモン 山岸儀左衛門 元祿